

26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続	
事業名	オープンデータの活用推進	所管課名	ICT戦略室
事業開始年度	平成25年度	総務企画局	ICT戦略課
実施主体	福岡市	ICT戦略室	
根拠法令	なし	基本	再
行政計画上の位置づけ	政策推進プラン, 行財政改革プラン, 情報化推進プラン	分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ビッグデータ・オープンデータが十分に活用されていない状況のもと、市民の利便性向上や新産業創出・経済活性化につながるよう、福岡市、千葉市、奈良市及び武雄市の首長が協議会を立ち上げ、他都市に先行して、課題の検討とともに実例の創出に取り組むこととしたもの。	施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり
		事業群	創業しやすい都市づくり
		施策成果指標	なし

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか オープンデータの活用を望む市民・企業	対象をどのような状態にしたいのか ①市民や企業が、オープンデータを有効に活用し、新事業や官民共働の新サービスを創出する。 ②二次利用しやすく、安心して活用できる形で公共データを広く公開する(オープンデータ化)。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input checked="" type="checkbox"/> 負担金含む	
①ビッグデータ・オープンデータ活用推進協議会				
○アイデアコンテストの実施				
・オープンデータ活用を具体的に推進するため、市民・企業から広く活用アイデアを募集する(H25.6~8)。				
・募集した活用アイデアについて、審査・表彰を行う(H25.11)。				
○公開シンポジウムの開催				
・オープンデータ活用推進について、市民・企業等への啓発を図る(H25.11)				
②オープンデータに関する調査検討(H25.7~H26.3)				
○諸課題の整理				
・福岡市が保有する公共データのオープンデータ化の整理				
○福岡市としての取り組みの方向性				
・ニーズの高いデータの抽出と、オープン化に向けてのステップ案				
事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計		4,560	7,000
	歳入			
	特定財源 一般財源		4,560	7,000

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	実施可能な活用方策(アイデア)	目標	3	3	年度
		実績	5		
		達成率	166.7%		
		目標			年度
成果の指標	オープンデータの活用事例	目標		創出	年度
		実績			
		達成率			
		目標			年度
		実績			
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- 活用アイデアコンテストの実施
- シンポジウムの開催
- 活用における諸課題整理と活用方策の検討

行政のコントロール要素

活動の指標

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- 活用機運の醸成
- 実現可能な活用アイデアの収集
- 活用のための諸課題に対する対応策
- 福岡市にふさわしい活用方策

小

成果の指標

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- 二次利用可能な行政データのオープン化が進み、福岡市発の先行事例が生じる。

小

施策成果指標

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

市民・企業が、オープンデータを様々な分野で有効活用し、新産業を創出したり、官民共働のもと新サービスが提供され、スタートアップ都市づくりに貢献している。

外的な要因

大

26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		所管課名	総務企画局	企画調整部
事業名	志賀島活性化構想推進	基本	施策コード	主 4-4-3 再
事業開始年度	平成14年度	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
根拠法令	なし	施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり	
行政計画上の位置づけ	なし	事業群	農山漁村地域など市街化調整区域の活性化	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 平成13年度に国民宿舎しかのしま苑が廃止されたことを機に、平成14年度に志賀島総合振興推進協議会(現在の志賀島振興協議会)が発足し、地域の活性化について検討を進めることになった。			
	施策成果指標			

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 志賀島	対象をどのような状態にしたいのか 志賀島活性化構想に基づく島づくりを促進し、志賀島の活性化を図る。 <志賀島活性化構想に掲げられた島づくりの方針> ・自然と歴史を継承する島づくり ・訪れる人をもてなす憩いの島づくり ・農業の営みを創り伝える島づくり ・安心して住み続けることができる島づくり ・ふるさとをみんなで創る助け合いと協力の島づくり

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

地域振興イベント「金印まつり」の開催について、負担金を支出し支援を行うとともに、志賀島活性化構想の推進について、地域の代表者等を中心に拠点施設の実現に向けた検討を行った。

○負担金(金印まつり)
金印まつりの開催に係る負担金
支出金額: 715,718円

○委託料(志賀島活性化構想推進業務委託)
拠点施設の実現に向けた検討に関する業務
支出金額: 3,885,000円

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	944	4,601	4,000
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	944	4,601	4,000

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	志賀島振興協議会等の開催回数(拠点施設検討等)	目標	6	6	年度
		実績	3		
		達成率	50.0%		
	金印まつりの来場者数	目標	微増	微増	年度
実績		3,600			
達成率		3,309			
成果の指標	定住人口	目標	1,929	現状維持	年度
		実績	1,929		
		達成率	96.9%		
		目標			年度
	実績				
	達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- ・地元と意見交換を行いながら、拠点施設の実現に向けた検討の実施
- ・関係局区の間連事業の総合調整

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- ・拠点施設の整備推進
- ・関係局区の連携による各事業の効果の最大化

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- ・志賀島の自立的な活性化の取り組み
- ・交流人口の増加

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- ・定住人口の増加

大
小
小
大

行政のコントロール要素
外的な要因

活動の指標
成果の指標
施策成果指標

26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		所管課名	総務企画局	企画調整部
事業名	ユニバーサル都市・福岡の推進	基本	施策コード	主 1-1-1
事業開始年度	平成23年度	計画	分野別目標	再
根拠法令	なし	画	施策	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
行政計画上の位置づけ	なし	画	事業群	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 少子高齢化や都市のグローバル化などに伴い、本市に暮らし、訪れる様々な人々の価値観やライフスタイルに対応するまちづくりが求められている。	画	成果指標	○ユニバーサルデザインの概念の理解度(H28:55%) ○ユニバーサルデザインの取組みへの評価(H28:45%)

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 市民	対象をどのような状態にしたいのか 市民一人ひとりが、ユニバーサルデザインの考え方を理解し、誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまちになっている。

25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
◎ユニバーサル都市・福岡賞の創設・実施 ⇒ UDによる取組や製品開発等を募集し表彰(応募:15件、表彰:7件) ◎ユニバーサル都市・福岡フェスティバル2013の開催 ⇒ 市、NPO等による事業を集中的に実施(17事業、延べ4万人以上参加) ◎ユニバーサル都市・福岡活動支援助成事業の実施 ⇒ NPO等のUDに関する活動に助成(11件応募、4件助成) ◎ユニバーサル都市・福岡デザインチャレンジ2013の開催 ⇒ 市内のデザイナーや企業等による、UDの考え方によるワークショップの開催 ⇒ 障がい者施設商品を対象に、商品開発から販売戦略まで検討 ◎企業向けセミナーの開催 ⇒ UDを企業活動へ取入れていくためのセミナー開催(3回、延べ132名が参加) ◎小学生向け副読本の作成 ⇒ 全市の小学校(4年生)に配布 ◎庁内推進 ⇒ 推進本部、全職員を対象としたeラーニング研修を実施			

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	30,118	15,000	15,000
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	30,118	15,000	15,000

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	ユニバーサル都市・福岡賞の応募数	目標	20	28	34年度	
		実績	15		110	
		達成率	75.0%			
	ユニバーサル都市・福岡の実現に向け活動する団体数	目標	10	12	16	34年度
実績		8	12	48		
達成率		80.0%	100.0%			
成果の指標	ユニバーサルデザインの概念の理解度	目標	52.0%	53.0%	34年度	
		実績	50.3%		47.2%	70.0%
		達成率			90.8%	
	ユニバーサルデザインの取組みへの評価	目標		42.0%	43.0%	34年度
		実績	40.3%	35.9%		65.0%
		達成率		85.5%		

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- ユニバーサル都市・福岡賞
- フェスティバルの実施
- 市民向けプロモーション、企業向け啓発事業の実施
- NPO等のUDに関する活動に助成
- 小学生へ副読本の配布
- eラーニングによる研修の実施

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- 市民等が、ユニバーサル都市・福岡賞に応募する
- 市民等がフェスティバルに参加する
- 市民や企業がUDに触れる
- NPO等がUDに関する取組を実施する
- 小学生がUDについて学ぶ
- 市職員がUDについて理解し、業務に取り入れる

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- 行政だけでなく、市民・地域、企業、学校などがUDの大切さについて十分に理解している。
- 行政をはじめ、市民・地域、企業、学校などで、UDに関する具体的な取組を行っている。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」が実現し、市民の生活の質や市の魅力が向上する。

大
小
小
大

行政のコントロール要素
外的な要因

26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	産業の国際競争力の強化(総合特区制度の活用等)	所管課名	総務企画局	企画調整部
事業開始年度	平成23年度	基本	施策コード	主 8-3-1 再
根拠法令	総合特別区域法	分	別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている
行政計画上の位置づけ	グリーンアジア国際戦略総合特区国際競争力強化方針等	計	画	施策
		画	事業群	国際ビジネスの振興
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に国において、産業の競争力強化を目的とした総合特別区域法が策定され、同法に基づき区域指定。 H23.6: 総合特別区域法成立 H23.9: 地域協議会の設立 H23.12: 総合特区の区域指定(グリーンアジア)	施	策	成果指標

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 環境を軸とした産業	対象をどのような状態にしたいのか アジアの活力を取り込み、環境を軸とした産業の競争力を強化する。

25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

- 総合特区制度の支援策に関する国との協議の実施
- グリーンアジア国際戦略総合特区地域協議会の運営
- 総合特区制度の支援策にあわせた福岡市独自の取組みの実施
- 市税の優遇や財政支援などの支援策の拡充等

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	6,785	2,668	5,000
	歳入			
	一般財源	6,785	2,668	5,000

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	目標				年度
		実績			
		達成率			
	目標				年度
		実績			
		達成率			
成果の指標	目標				年度
		実績			
		達成率			
	目標				年度
		実績			
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	行政のコントロール要素
	②結果アウトプット(活動の結果, どうなるのか)	
	③中間アウトカム(その結果, 対象はどうなるのか)	
	④最終アウトカム(その結果, 市としてどうなるのか)	
成果の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	外的な要因
	②結果アウトプット(活動の結果, どうなるのか)	
	③中間アウトカム(その結果, 対象はどうなるのか)	
	④最終アウトカム(その結果, 市としてどうなるのか)	

活動の指標: 小

成果の指標: 小

行政のコントロール要素: 大

外的な要因: 大

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)
産学官で構成するグリーンアジア国際戦略総合特区地域協議会への参画
国や協議会の動きにあわせて、福岡市としてのインフラ整備や民間支援策などの事業を実施

②結果アウトプット(活動の結果, どうなるのか)
地域協議会において、民間事業者の投資計画などを踏まえた特区計画の作成・変更や、支援策のPRなど民間事業者の活用を促進する環境を整備。国による規制改革や財政支援等による事業環境の改善。

③中間アウトカム(その結果, 対象はどうなるのか)
民間事業者による総合特区制度の支援策を活用した設備投資額の拡大。

④最終アウトカム(その結果, 市としてどうなるのか)
投資の促進による産業の国際競争力強化、雇用の確保。

26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		企画調整部		企画課
事業名	超高齢社会対応検討経費(一部)アクティブエイジング	所管課名	総務企画局	企画調整部
事業開始年度	平成25年度	基本	施策コード	主 1-3-3 再
根拠法令	なし	分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	
行政計画上の位置づけ	なし	施策	一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 超高齢社会の到来に向けてアクティブエイジング(生涯現役社会づくり)を進める必要があったもの。	事業群	アクティブエイジングの推進	
		健康に生活している高齢者の割合(H28 現状44%より増加)		

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 概ね60歳前後の市民	対象をどのような状態にしたいのか 知識や経験を生かして、社会の担い手、支え手として意欲的に社会参加し、活躍することができるようになる。

25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

○還暦の節目であり、生活スタイルの大きな転換が見込まれる60歳前後の世代を主な対象として、必要な情報や人に出会える情報見本市「アラカンフェスタ」を初開催した。

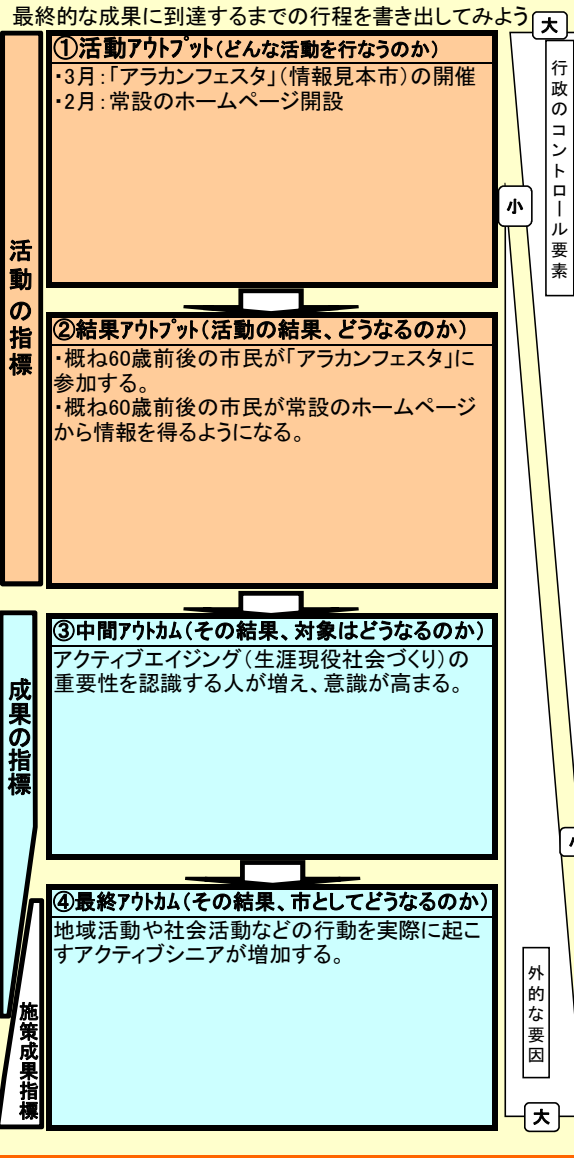
○常設のホームページを開設し、イベントの情報発信を行った。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	0	10,500	13,500
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	0	10,500	13,500

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	「アラカンフェスタ」への来場者数	目標	3,000	7000	年度
		実績	3,957		
		達成率			
		目標			
成果の指標	60歳以上市民の地域活動参加率	目標	50	53	年度
		実績			
		達成率	0.0%		
		目標			
		実績			
		達成率			

ロジックモデル作成用のテーブル



26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		企画調整部		企画課
事業名	超高齢社会対応検討経費(一部)共助の仕組み	所管課名	総務企画局	
事業開始年度	平成24年度	基本	施策コード	主 2-3-1
根拠法令	なし	分野別目標	再	
行政計画上の位置づけ	なし	施策	さまざまな支え合いとつながりができている	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 超高齢社会の到来に向け、住み慣れた地域で元気に暮らしていける共助の仕組みづくりが必要であったため。	事業群	支え合いや助け合いによる地域福祉の推進	
		画	見守り・支え合いの仕組みづくり	
成果指標		地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合 (H28 50%)		

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 地域住民 行政 民間事業者 NPO	対象をどのような状態にしたいのか 住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう、共助の仕組みづくりを行う。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

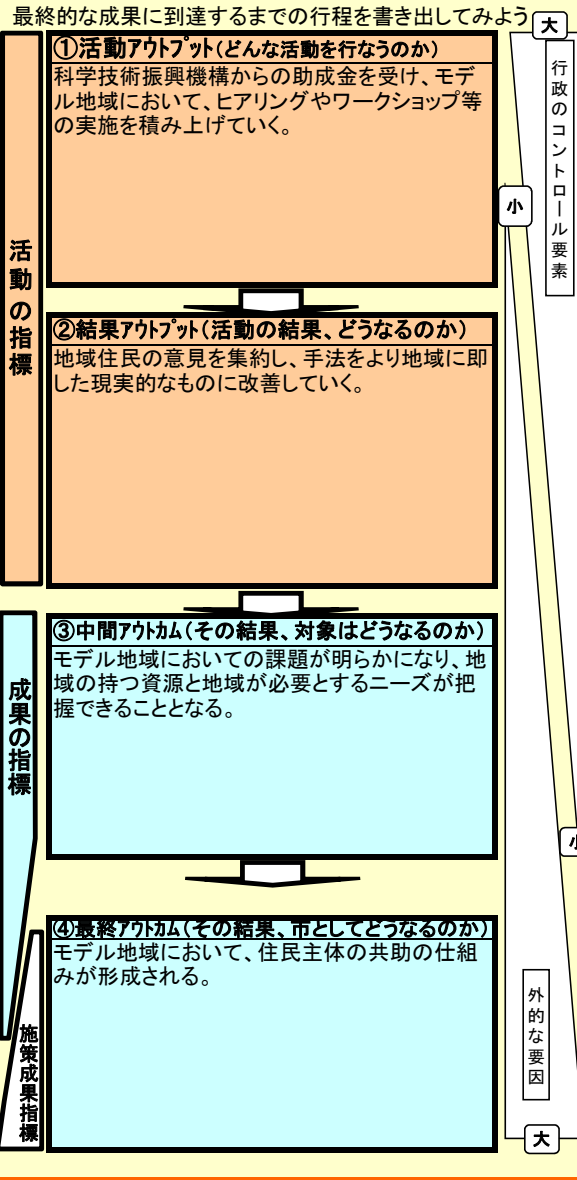
○共助の仕組みづくりについて、アジア・エイジング・ビジネスセンター、九州経済調査協会、福岡市が共同研究チームを結成し、科学技術振興機構から助成金を受けてモデル事業を実施。
○モデル地区において、地域課題と、地域の人材や資源を把握・見える化し、それをマッチングすることで解決策を考えるしくみ・手法の調査検討を実施。
○企業やNPO等の参加の仕組みづくり、地域でのコーディネート人材の育成等について検討に着手。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	5,000	3,260	834
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	5,000	3,260	834

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	モデル地区において、モデル作りのワークショップ等を実施した回数	目標	2	5	7	年度
		実績	1	4		
		達成率	50.0%	80.0%		
		目標				
成果の指標	共助のための企業等との連携体制ができた地域数	目標		1	1	年度
		実績		0		
		達成率		0.0%		
		目標				
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル



26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		企画調整部		企画課
事業名	超高齢社会対応検討(一部)市民理解	所管課名	総務企画局	
事業開始年度	平成24年度	基本	施策コード	主 8-6-2
根拠法令	なし	分	別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている
行政計画上の位置づけ	なし	計	画	施策
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 超高齢社会の到来に向け日本が先行している分野での海外貢献や、海外展開を検討する企業支援等を通じて福岡市の拠点性を高める必要があるため。	画	事業群	アジアの諸都市などへの国際貢献・国際協力の推進
		画	事業群	海外諸都市・国際機関等との連携・交流強化
		画	施策	視察・研修受入人数 (H28 970人)

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 市民 高齢関係事業者	対象をどのような状態にしたいのか 超高齢社会に関する理解の促進と関連する事業活動の活性化を図り海外進出につなげる。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

○高齢化関係の国際会議に参加・ブース出展し、情報収集や情報発信等を実施

○企業も対象としたセミナーを開催し、市民理解の促進と事業活動の活性化を図った。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	3,196	740	740
	歳入			
	特定財源	0	0	0
	一般財源	3,196	740	740

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	ビジネスワークショップ等の開催回数	目標	1	1	1	年度
		実績	1	1		
		達成率	10.0%	100.0%		
		目標				年度
成果の指標	海外で何らかの事業を実際に行った企業(福岡に拠点を有するもの)の数	目標			1	年度
		実績				
		達成率				
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)
企業ワークショップ等を開催する。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)
海外進出を検討する企業が参加する。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)
海外とのネットワークが広がる。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)
企業のスムーズな海外展開に寄与することとなり、福岡市の拠点性が高まる。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

大

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

26年度 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 新規

事業名	グローバル人材の育成と集積(グローバル人材の育成・定着/イノベーション創出支援事業)	基本	所管課名	総務企画局	企画調整部
事業開始年度	平成26年度	本	施策コード	主 8-5-1	再 7-5-3
根拠法令	なし	計	分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている	
行政計画上の位置づけ	なし	画	施策	グローバル人材の育成と活躍の場づくり	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に ○社会のグローバル化、日本・九州の人口減少が進む中で、本市の国際競争力を高め、活力を維持していくために、グローバルに活躍できる人材の育成と集積及び活躍できる環境づくりを行う必要があるため。	施	事業群	日本と世界をつなぐ人材の集積と交流拠点の形成	
		策			
		成			
		果			
		指			
		標			

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 【グローバル人材の育成】 市内中高生 【グローバル人材の集積】 福岡都市圏 福岡内外の人材及び企業	対象をどのような状態にしたいのか 【グローバル人材の育成】 グローバル人材育成環境の充実させることで将来的に世界で活躍できる人材の育成を図る。 【グローバル人材の集積】 イノベーション創出支援により革新的なビジネスアイデアが生まれることで、スタートアップが加速され、また企業内新ビジネスが創出され、その成果により都市が豊かになる。

25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

【グローバル人材の育成】
●事業名:グローバル人材の育成・定着
将来的に世界で活躍できる人材の育成のため、福岡の特性を活かしたグローバル人材育成施策を調査し、その導入を検討するもの。平成25年度はアジアに近いという特性を活かし、釜山広域市の高校生と市内高校生等を対象とした取組みを試行的に実施した。
【委託費】8,085千円
【グローバル人材の集積】
●H25事業名:人材ネットワークの構築に関する調査
(H26事業名:イノベーション創出支援事業)
福岡の多様な人材と企業・海外都市の人材が共にイノベーションを起こすことで、革新的なビジネスアイデアを生み出し、起業・創業の促進や創造性のある人材の集積を実現する仕組み「イノベーションスタジオ福岡(イノスタ)」の事業化に向けた検討等を実施。(福岡地域戦略推進協議会(FDC)人材部会)
【委託費】16,000千円

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	0	34,000	48,903
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	0	34,000	48,903

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	イノスタ協賛企業数	目標		10	28年度
		実績			20
	達成率				
	生みだされたビジネスアイデアの数	目標			10
実績					20
成果の指標	生みだされたスタートアップの数	目標		2	28年度
		実績			5
	達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか) 【グローバル人材の育成】 国際バカロレア認定校等のグローバル人材育成施策実践校への調査・ヒアリングを実施する。 【グローバル人材の集積】 イノベーションスタジオ福岡がスタートする。(福岡市が負担金を支出し、運営を支援)	行政のコントロール要素 大 小
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか) 【グローバル人材の育成】 教育委員会等の関係部署と調査・ヒアリングの成果(方向性、課題等)を共有し、今後の具体的な検討及び導入を支援する。 【グローバル人材の集積】 福岡内外の多様な人材や企業がイノベーションスタジオ福岡に参加する。	
	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか) 【グローバル人材の育成】 明確になった方向性と課題を踏まえた施策が立案・導入される。 【グローバル人材の集積】 よりよい生活につながるアイデアから新しい製品やサービスが生みだされ、創業や第2創業といったスタートアップが実現する。	
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか) 【グローバル人材の育成】 グローバル人材育成環境が充実し、市内中高生が将来的に世界で活躍できる人材として育成される。 【グローバル人材の集積】 スタートアップや創造性のある人材や企業の研究開発拠点の集積が促進され、雇用が生まれ税収が増加し、都市が豊かになる。	

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		所管課名	総務企画局	企画調整部
事業名	福岡市における東京圏バックアップ調査研究・推進事業	基本	施策コード	主 4-4-6 再
事業開始年度	平成23年度	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
根拠法令	なし	施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり	
行政計画上の位置づけ	なし	事業群	東京圏バックアップの推進	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 東日本大震災をきっかけに、主要な官公庁や民間企業の本社等、東京圏に国の中枢機能が一極集中していることの危機管理上の課題が強く認識されはじめたこと。			
施策成果指標				

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 国(内閣府等)、民間企業、福岡市	対象をどのような状態にしたいのか 産学官で連携し、福岡市に東京圏のバックアップ機能を誘致することで、国全体の危機管理体制を構築するとともに、福岡市の活性化にもつなげる。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input type="checkbox"/> 委託含む	<input type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
<p>○国におけるバックアップの動向を把握。 ○東京圏バックアップの実現に向け、地元福岡での機運を高めることを目的に、福岡でシンポジウムを開催。 ○PR資料を基に、国に対して提言を行うとともに、東京事務所や経済観光文化局企業誘致課による企業訪問を実施。</p>			

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	818	1,070	2,390
	歳入			
	特定財源 一般財源	818	1,070	2,390

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	シンポジウムの開催数	目標	2回/年	1回/年	年度
		実績	1回/年		
		達成率	50.0%		
	シンポジウムの参加者数	目標	250名/回	150名/回	年度
実績		210名/回			
達成率		84.0%			
成果の指標	福岡市への東京圏バックアップの実現	目標	1		年度
		実績	0		
		達成率	0.0%		
	目標				年度
	実績				
	達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- 産学官が連携したバックアップ機能の誘致活動の実施
- 国、民間企業等へ、福岡市がバックアップ拠点として適していることのPR活動の実施

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- 国が福岡市をバックアップ拠点とすることを検討する。
- 民間企業が福岡市への本社機能その他重要な機能の移転について検討する。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- 国が福岡市をバックアップ拠点とすることを決定する。
- 民間企業が本社機能等を福岡市に移転する。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- 国や民間企業等が、東京圏の中枢機能を福岡市にバックアップすることで、福岡市の経済活動の活性化、人口増加等につながり、市民の生活の質や、市の魅力が向上するとともに、災害に強い国づくりに向けた地方の役割を果たすことができる。

大
行政のコントロール要素
小
大
外的な要因

26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
		所管課名	総務企画局	企画調整部
事業名	都心のまちづくりの推進	基本	施策コード	主 4-6-2 再
事業開始年度	平成17年度	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	
根拠法令	なし	施策	ストックの活用による地区の価値や魅力の向上	
行政計画上の位置づけ	なし	事業群	エリアマネジメントの推進	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に福岡都心部の更なるにぎわい創出や魅力向上をおこなう必要性があったため。	画	なし	
		施策成果指標	なし	

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 都心部	対象をどのような状態にしたいのか 官民共働により、都心部の魅力や回遊性の向上、美しい景観の形成や安全・安心の空間を創出する。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

○天神地区・博多地区において、地域・企業などが会員となって、魅力的なイベントの実施、回遊性向上や来街者のおもてなし、まちの美化、防犯・防災活動等のまちづくり活動を実施しているエリアマネジメント団体(天神地区: We Love 天神協議会、博多地区: 博多まちづくり推進協議会)に負担金を支出するとともに、エリアマネジメント団体のまちづくり事業に対し支援を行った。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	22,808	24,560	24,486
	歳入			
	特定財源	8,962	15,360	9,600
	一般財源	13,846	9,200	14,886

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	エリアマネジメント団体数	目標	2	2	2	年度
		実績	2	2		
	達成率	100.0%	100.0%			
	目標				年度	
成果の指標	福岡都心部は賑わいがあり訪れたい魅力があると感じる市民	目標	79	79	79	年度
		実績	79			
	達成率	100.0%	0.0%			
	目標				年度	
	実績					
	達成率					

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)
 エリアマネジメント団体に負担金を支出するとともに、エリアマネジメント団体のまちづくり事業に対し支援を行う。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)
 エリアマネジメント団体による、まちづくりイベント、集客促進活動、安全安心・環境向上活動が進む。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)
 エリアマネジメント団体の活動が活発になり、よりいっそう自律的に運営できるようになる。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)
 福岡都心部の価値や魅力が持続的かつ自律的に維持できることとなる。

行政のコントロール要素
 小
 大

外的な要因
 小
 大

活動の指標
 小
 大

成果の指標
 小
 大

26年度 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 継続

事業名	産学官民連携による国際競争力強化	所管課名	総務企画局	企画調整部
事業開始年度	平成23年度	基本	策	コード
根拠法令	なし	主	6-1-1	再
行政計画上の位置づけ	なし	8-1-1		
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に アジアと日本の玄関口であり、暮らしの質の高さが世界から評価されている福岡であるが、今後は人口減少などにより経済成長が衰退する見込みがある。今後福岡の活力を維持強化していくためには、産学官民が一体となって、国際競争力を高め、地域経済をグローバル化することで、アジアの内需を取り込んでいく必要がある。	分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている	
		施策	産学官連携による、知識創造型産業の振興	
		事業群	産学官連携の推進	

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか ○福岡都市圏	対象をどのような状態にしたいのか ○産学官民が一体となって、策定した地域戦略を推進することで、国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域となっている。

25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

○福岡都市圏の成長戦略を推進していくための産学官民連携組織である福岡地域戦略推進協議会の負担金を支出した。
福岡市は正会員として参画
(負担金内訳:正会員年会費:300千円,協賛金等:49,400千円)

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計		49,700	39,400
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	0	49,700	39,400

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	市民シンポジウムの参加者	目標	250	2,000		32年度
		実績	180	1,000	1000	2000
		達成率	72.0%	50.0%		
成果の指標	域内総生産(GRP)(+兆円)	目標				32年度
		実績				2.8
		達成率				
	雇用増加(+万人)	目標				32年度
		実績				6
		達成率				
人口増加(+万人)	目標				32年度	
	実績				7	
	達成率					

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか) ・福岡地域戦略協議会が策定した地域戦略を推進するために、5つの部会ごとにプロジェクトを検討する。 ・イベントや情報発信を通じて、市民との共有を重視しながら戦略を推進していく。	行政のコントロール要素
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか) ・5部会それぞれのプロジェクトが事業化を見据えて進められている。 ・市民との共有が実現することにより戦略がより推進される。	
成果の指標	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか) ・次々と事業が生みだされることで、域内外から人と投資が呼び込まれ、成長戦略目標が達成される。	外的な要因
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか) 福岡都市圏が東アジアのビジネスハブとして、日本・中国・韓国・台湾などのビジネス交流拠点となり、多様な人材が訪れ、働き、暮らす、国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域となっている。	

26年度 内部点検対象事業(個票)

新規/継続 新規

事業名	ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)再整備の推進	所管課名	総務企画局	ウォーターフロント再整備推進室
事業開始年度	平成25年度	基本	施策コード	主 8-1-1 再 8-1-2 5-3-2 5-4-1
根拠法令	なし	本	分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている
行政計画上の位置づけ	福岡市総合計画(施策8-1)	計	施策	都市の活力を牽引する都心部の機能強化
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に福岡市総合計画においてウォーターフロント地区は、天神・渡辺通、博多駅周辺と同じく、都心部の核として位置付けられており、都市機能の強化、回遊性の向上を図ることが都市の活力を牽引するうえで求められている。	画	事業群	都心部の機能強化と魅力づくり
		施	成果指標	○都心部の従業者数:中間目標値(H28ND)39万人、目標値(H34ND)40万人 都心部の1日あたりの歩行者交通量:中間目標値(H28ND)110,000人、目標値113,000人(H34ND)

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象に行なうのか ○ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)	対象をどのような状態にしたいのか 1)天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区に次ぐ、都心部の新たな拠点として、都市機能を高めるとともに、地区間の連携強化を図り、福岡市の成長エンジンとなる都心部の国際競争力の強化を図る。 2)民間活力やノウハウを積極的に活用しながら、既存施設との連携を図りつつ、MICE機能の更なる強化や集客交流機能、港湾機能の充実・強化により、MICE機能と港湾機能が近接した地区の強みを生かした一体的な再整備を行う。 3)市民をはじめ国内外からの来街者が海に出て楽しめるよう、水辺を生かしたシンボリックな空間や賑わいが連続した憩いと潤いのある空間の創出と、海や街からの眺めや緑を大切に景観形成を図り、福岡の顔となる都心部の新たな拠点をめざす。

25年度事業実施内容(手段)目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
 実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

中央ふ頭・博多ふ頭におけるウォーターフロント地区再整備について、民間事業などに対して分かりやすい行政のワンストップ窓口としての役割を担うとともに、関係局間の総合的な調整を行った。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計		9,870	11,300
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	0	9,870	11,300

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標	
		24年度	25年度	26年度	最終年度
活動の指標	市民意見募集の実施回数	目標	未実施	1	26年度
		実績	未実施		
		達成率		1	
		目標			年度
成果の指標	市民意見の件数	目標	未実施	100	26年度
		実績	未実施		
		達成率		100	
		目標			年度
	実績				
	達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

○ウォーターフロント地区再整備にあたっての市民向けの広報啓発

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

○再整備に関する市民の認知度向上

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

○ウォーターフロント再整備に関する必要性の理解

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

○ウォーターフロント地区の着実な再整備

活動の指標

成果の指標

施策成果指標

行政のコントロール要素

外的な要因

26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	在住外国人の生活環境整備事業	所管課名	総務企画局	国際部
事業開始年度	昭和61年度	基本	再	国際企画担当
根拠法令	なし	分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている	
行政計画上の位置づけ	なし	施策	アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくり	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に国際化の進展に伴い、在住外国人の生活にかかる情報の収集・提供を中心に事業開始。時代の変化に対応した事業を展開し、外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくりを図る。	事業群	外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくり	
		施策成果指標	○在住外国人の住みやすさ評価(H29:増加) (福岡市は住みやすいと感じる在住外国人の割合) ○福岡市に住んでいる外国人の数(H28:29,000人)	

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 在住外国人 在住外国人の支援者 (日本語ボランティア等) 日本人市民	対象をどのような状態にしたいのか 地域における相互理解を促進し、日本人にも外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくりを進める。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 委託含む	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金含む	<input type="checkbox"/> 負担金含む
○施策検討	・多文化共生懇話会の開催(外国人7名、日本人5名)[国際部]		
○情報提供等	・転入外国人への生活便利帳等「ウェルカムキット」の配付[全区役所] ・在住外国人へのマナー紹介等[国際交流財団]		
○日本語学習支援	・日本語ボランティア養成講座[国際部・市民ボランティア委託] [※H24まで早良区] ・市民センターにおける日本語学習支援[東・中央・城南・早良・西区] ※国際部、各区、国際交流財団、市民の連携により実施		

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	4,743	7,609	8,180
	歳入		0	
	特定財源			
	一般財源	4,743	7,609	8,180

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	日本語ボランティア養成講座受講者数	目標	早良区 50	70	年度	
		実績	49			70
		達成率	-			140.0%
成果の指標	市内の日本語教室数	目標	45	45	年度	
		実績	46			45
		達成率	102.2%			100.0%
		目標			年度	
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)

- ・多文化共生懇話会を開催する。
- ・生活便利帳等「ウェルカムキット」を配付する。
- ・日本語教室、ボランティア養成講座を開催する。
- ・マナー紹介、ボランティア通訳派遣を実施する。
- ・区役所窓口業務を支援する出張レインボープラザを実施する。

②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)

- ・在住外国人へ情報が届く。
- ・在住外国人が日本のマナーを学ぶ。
- ・日本語ボランティアが増え外国人が日本語を学ぶ。
- ・在住外国人と地域住民との交流が進む。
- ・区役所職員の外国人対応がスムーズになる。

③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)

- ・外国人が情報収集しやすくなる。
- ・外国人が日本語を学びやすくなる。習得できる。
- ・外国人が地域で生活しやすくなる。地域とのトラブルが避けられる。
- ・外国人が区役所を利用しやすくなる。

④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)

- ・日本人と外国人の相互理解が進み、日本人にも外国人にも住みやすく活動しやすいまちになる。
- ・より多くのグローバル人材としての外国人が住むようになり、福岡市の国際化、活性化につながる。

行政のコントロール要素

小

大

外的な要因

大

26年度 内部点検対象事業(個票)

		新規/継続		継続
事業名	留学生支援・ネットワーク構築事業	所管課名	総務企画局	国際部
事業開始年度	昭和63年度	基本	施策コード	主 8-5-2 再
根拠法令	なし	分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている	
行政計画上の位置づけ	なし	施策	グローバル人材の育成と活躍の場づくり	
背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か ※できるだけ具体的に 地域の競争力を強化し活性化を図る上で、地域や我が国を支える人材として、また、世界で活躍できる高度人材、あるいは出身国と福岡との橋渡しをする人材として、留学生が重要な存在となっている。そこで、優秀な留学生の本市への集積を促進するとともに、本市留学経験者を含め、地域における活用を図る必要があったため。	事業群	留学生支援・外国人ネットワークの構築	
		実施成果指標	○ 就労目的の在留資格を持つ外国人の数(H28: 3,200人)	

【事業概要】

対象	目的
誰(何)を対象として行なうのか 留学生 帰国留学生 市民	対象をどのような状態にしたいのか ・ 地域社会や我が国を支える人材として優秀な留学生の集積を促進するとともに、市民交流を推進し、市民の理解と協力を得、福岡の良き理解者として養成する。

25年度事業実施内容(手段) 目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
 実施手法 委託含む 補助金含む 負担金含む

- 留学生奨学金事業
 - ・ 福岡市レインボー奨学生奨学金(福岡国際交流協会)により、留学生の経済面の援助をし、学習環境の整備と優秀な人材の誘致を行った。
- 「福岡県留学生サポートセンター」における海外広報、就職支援
 - ・ 経済界、大学及び県などと共同で、海外広報や留学生への就職支援を行った。
- 福岡市留学生経験者も含む留学生とのネットワークの構築
 - ・ 奨学金受給者から受給に際し、継続的に連絡をとれるメールアドレスの収集を始め、メルマガの定期的な配信を行った。

事業費 (千円)	年度	24年度決算額	25年度決算見込額	26年度予算額
	歳出合計	15,300	15,300	20,800
	歳入			
	特定財源			
	一般財源	15,300	15,300	20,800

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容	実績		目標		
		24年度	25年度	26年度	最終年度	
活動の指標	福岡市内の大学・短大に在籍する留学生数	目標	3,150	3,471	3571	32年度
		実績	3,247	3,227		5533
		達成率	103.1%	93.0%		
		目標				年度
成果の指標	連絡の取れる留学生数・留学経験者数	目標		250	600	28年度
		実績	210	320		1000
		達成率		128.0%		
		目標				年度
	実績					
	達成率					

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	行政のコントロール要素
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	
	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	
成果の指標	①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)	外的な要因
	②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)	
	③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)	
	④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)	

- ①活動アウトプット(どんな活動を行なうのか)
- ・ 留学生奨学金事業を行う。
 - ・ 留学生の市民交流を促進する。
 - ・ 福岡県留学生サポートセンターを通じ、海外広報、就職支援を行う。
 - ・ 福岡市留学生経験者も含む留学生とのネットワークの構築を行う。

- ②結果アウトプット(活動の結果、どうなるのか)
- ・ 奨学金を受給する留学生の生活が安定する。
 - ・ 留学生に対する市民の理解と協力を得られる。
 - ・ 留学先に福岡市を選択する留学生が増加する。
 - ・ 留学生奨学金事業により、留学生の学習環境を整備し、優秀な人材の誘致ができる。
 - ・ 帰国留学生とのネットワークを維持できる

- ③中間アウトカム(その結果、対象はどうなるのか)
- ・ 福岡市への留学経験者が、福岡市に対して好意的な、良き理解者となる。
 - ・ 福岡市に就職する留学生が増加する。
 - ・ 地域での留学生の人材活用を行うことができる。

- ④最終アウトカム(その結果、市としてどうなるのか)
- ・ グローバル人材として留学生を活用し、福岡市で活躍する優秀な人材を定着させることができる。
 - ・ 福岡市がグローバル人材の結節点として機能する。